



【共通】

◆生育状況について

1. JA管内 あんず 新潟大実

	発芽	開花	満開	落花
平年		3 / 27	4 / 1	4 / 9
令和8年				
令和7年		3 / 28	4 / 7	4 / 15

2. JA管内 プルーン くらしま

	発芽	開花	満開	落花
平年	4 / 7	4 / 12	4 / 16	4 / 26
令和8年				
令和7年	3 / 29	4 / 11	4 / 15	4 / 25

3. JA管内 日本なし 南水

	発芽	開花	満開	落花
平年	3 / 27	4 / 13	4 / 17	4 / 23
令和8年				
令和7年	3 / 30	4 / 15	4 / 19	4 / 26

◆樹勢衰弱樹対策の葉面散布について

- 散布時期：開花期・落花期
- 使用葉面散布肥料
 - アミノメリット青500倍（水1000当たり200g）

【プルーン・すもも】

◆第2回薬剤散布について

- 散布時期：開花始め（花が1～2輪咲き始めたら散布） 実際散布月日 月 日
- 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000当たり・10a当たり散布量：3500以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤アプローチBI	1,000倍	100ml	－	－
ロブラール水和剤	1,500倍	66g	前日	灰星病

3. 散布上の留意事項

- アブラムシ発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍（水1000当たり25g）を加用散布する。

◆結実確保対策（人工受粉）実施について

すももは、ほとんどの品種が自家不和合性、プルーンは、自家和合性と自家不和合性がある。人工受粉を行わないと結実不足による収量減となってしまうため、対策を実施し、所得向上を図る。（一般的な内容は、果樹総合情報No.2参照）

《すもも》（記号：◎＝最良・○＝やや良・△＝結実低い・×＝結実なし・―＝不明）

受粉樹（品種） 交配が必要な品種	大石早生	サンタローザ	ソルダム	太陽	紅りょうぜん	エレファントハート	ハリウッド
大石早生	×	◎	◎	◎	―	―	◎
サンタローザ	○	△	◎	◎	―	―	◎
ソルダム	◎	◎	×	◎	―	―	◎
太陽	×	○	×	×	×	○	○
紅りょうぜん	○	◎	○	×	×	―	◎
貴陽	×	×	×	×	×	△	△
秋姫	○	―	×	○	―	―	◎
シナノパール	―	―	×	○	―	―	○

《プルーン》（記号：◎＝最良・○＝良好・△＝やや良好・×＝不良・―＝不明）

トレジディ・グランドプライズ・くらしまは、特に実止まりが悪いので必ず実施する。

〔開花時期 ※年により差がある。 早い ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 遅い〕

受粉樹（品種） 交配が 必要もしくは、 した方が良い品種	シユガー	くらしま	オータムキュート	トレジディ	プレジデント	サマーキュート	アーリーリバー	ベイラー	くらしま早生	サンタス	グランドプライズ	スタンレイ
くらしま	○	×	○	○	―	○	×	○	△	―	×	○
オータムキュート	△	◎	×	○	○	○	―	△	―	―	―	―
トレジディ	○	◎	○	×	○	―	○	△	○	―	△	―
プレジデント	◎	―	―	◎	×	―	◎	△	―	―	○	◎
サマーキュート	◎	◎	―	△	◎	○	―	△	◎	◎	―	―
ベイラー	◎	―	―	◎	○	―	◎	×	―	―	○	○
くらしま早生	○	○	―	○	―	―	○	×	×	―	△	―
サンタス	◎	―	―	―	◎	―	○	×	○	△	―	―
グランドプライズ	○	△	―	○	△	―	◎	△	○	―	×	○

【あんず】

◆人工受粉の実施について

「山形3号」「ハーコット」は、結実が不安定なため、積極的に他品種との交互交配を実施し、結実確保を行う。

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期：80%落花時

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオンE	1,500倍	66ml	—	—
オンリワーンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	うどんこ病・黒星病
ウララD F	4,000倍	25g	7日	アブラムシ類
マイコシールド	1,500倍	66g	14日	かいよう病

3. 散布上の留意事項

- 1) 固着性展着剤アビオンEに代えて、固着性展着剤K. Kステッカー3,000倍(水100ℓ当り33ml)を使用してもよい。ただし、最後に調合する。又は、普通展着剤10,000倍(水100ℓ当り10ml)を使用してもよい。
- 2) 花弁が80%以上落花したら実施するが、落花していない状態でも、前回散布間隔12日以内を優先し実施する。
- 3) オンリワーンフロアブルに代えて、アンビルフロアブル1,000倍(水100ℓ当り100ml)を使用してもよい。
- 4) かいよう病の発生が見られなかった園は、マイコシールドに代えてトレノックスフロアブル500倍(水100ℓ当り200ml)を使用してもよい。
- 5) カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル1,000倍(水100ℓ当り100ml)を加用散布する。

【うめ】

◆かいよう病対策特別薬剤散布について

かいよう病が発生した場合は、必ず散布する。

1. 散布時期：展葉初期（80%落花期）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
マイコシールド	1,500倍	66g	21日	かいよう病

【おうとう】

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期：開花始め

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
パスワード顆粒水和剤	1,000倍	100g	前日	灰星病・幼果菌核病

◆人工受粉の実施について

主力の佐藤錦は、結実が悪く、訪花昆虫だけでは不安定なため人工受粉を行う。

受粉樹(品種)	紅秀峰	高砂	ナポレオン	香夏錦	佐藤錦	正光錦
佐藤錦	良好	良好	良好	良好	不良	良好

【なし】

◆芽たつき・摘蕾の実施について

1. 目的・効果

貯蔵養分の無駄な消費を防ぎ、大玉生産につながるよう実施する。摘果作業省力にも役立つので必須。

2. 落とす蕾

- 1) 主枝・亜主枝・側枝の先端部のえき芽花はすべて摘蕾する。
- 2) 短果枝着生のために誘引した2年枝のえき芽花もすべて摘蕾する。
- 3) ラ・フランスは2～4番花を中心に成らすので番花の遅い花を摘蕾する。

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期：開花前

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：棚3000ℓ以上・立木3500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
ミギワ20フロアブル	4,000倍	25ml	前日	黒星病・黒斑病・赤星病
ロムダンフロアブル	3,000倍	33ml	7日	ケムシ類・ハマキムシ類

3. 散布上の留意事項

- 1) 赤星病は雨が多いと感染が多くなるので、開花前後とその後の防除間隔が空かないようにする。
また、植木で「ビャクシン」があると感染しやすい。1km位は感染範囲となるので注意する。

◆人工交配実施について

結実確保と大玉生産を目的に必ず実施する。

1. 日本なし

- 1) 南水の受粉樹は、ヤーリー・松島・豊水が利用できる。
- 2) 南水は、3～4番花を中心に受粉する。
- 3) 試行技術の溶液受粉については、果樹営農技術員までご相談ください。

2. 西洋ナシ

- 1) 西洋ナシの場合、自家不和合性のため、他品種の花粉が必要です。
- 2) ラ・フランスの受粉樹は、日本なし（幸水・豊水・二十世紀）、シルバーベルが利用できる。
その他の品種は、ラ・フランス利用できる。
- 3) ラ・フランスは、2～4番花を中心に受粉する。